

令和7年度(第10回)入学式 学校長式辞

満開を迎えた桜の花がそよ風に運ばれる中、校庭も春の息吹に心和らぐ季節となりました。先週までの花冷えもようやく一段落し、入学式が待ち遠しく校長室から季節の移り変わりを感じておりました。この春のよせ口、京都市立京都工学院高等学校第10回入学式を挙行するにあたり、京都市教育委員会事務局並びに学校運営協議会、同窓会、PTA役員をはじめ、「来賓の皆さまの」臨席を賜り、高段からではございますが、厚く御礼申し上げます。

また、保護者の皆さまには「列席をいただき、誠にありがとうございました。真新しい制服に身を包み、このように凛々しく成長されたお子様の姿に、これまで見守り、支えてこられました保護者の皆様には、さぞ感慨深いものがあつつかと存じます。心よりお祝いを申し上げます。

さて、入学を許可いたしました234名の新入生の皆さん、入学おめでとうございます。皆さんは、中学校までの義務教育を終え、自分の将来を考えるついで、普通科ではなく、理工系専門学科が設置される本校を選択されました。皆さんは、高校への進学を目指し、入学者選抜という試験を乗り越え、晴れて本日を迎えるました。これまでの努力に敬意を表しますとともに、教職員一同、入学を心から祝福し歓迎します。

京都唯一である理工系専門高校の本校は、開校以来、時代に先駆けて、STEAM教育（Science Technology Engineering Arts Mathematics を関連化して学び）を重点に教育活動を展開しています。また、一昨年度からは、文部科学省のスーパーサイエンスハイスクール（SSH）に採択され、先進的な科学技術、理数教育を通じて、生徒の科学的な探究能力等を培い、将来社会を牽引する科学技術人材を育成するための研究開発に取り組んでいます。本校の研究開発課題は、「未来を切り拓くSTEAM人材の育成」です。

先ほど、披露された校歌の2番に「ホモ・ファーベル」という一節があります。詩人の谷川俊太郎先生からいただいた大切な言葉です。ヨーロッパの哲学者による「テクニクスの造語でモノを創造し作り出す工作人（ツバサギビト）」と訳されます。ホモ・サピエンスとの対比で、人間を他の動物と明確に区別する本質的規定を「道具を作り出し、工夫して使用する点」に求める人間觀を要約したものです。好奇心旺盛なホモ・サピエンスとして入学した生徒が、本校で楽しく学びを重ね、未来を創り続けるホモ・ファーベルとなつて欲しいと願い、SSH事業の研究テーマにも「世界で活躍するホモ・ファーベルを育成するための研究開発」として掲げています。STEAM教育を展開・推進する本校にとって重要な指導目標です。

今、国内でも産業構造や仕事内容が急速に変化を続けており、産業人材育成を担う専門高校においては、成長産業化を図る産業界と連動した扱い手の育成が求められています。どのような社会情勢が取り巻く中で、常に「プロス思考で行動できる学校づくりを目標し、スクールメッセージを掲げています。本年度のスクールメッセージは一歩踏み出し、「常にプロス思考で今できることを逆算して始めてみよう!」です。

高校生活では、時間や経済的な制約のある中、見通しをもつた目標設定からスケジュールを逆算して進めていくことが大切です。例えば、「元旦」の計画や「新年の目標」を立てて、目標設定することができるが、今年の目標はどうだったでしょうか?「今なぜ」「れをやるのか?」「何がゴールなのか?」が分からなければ、スタートしたこと自体がゴールとなってしまい、継続しないことがこれまであったのではないでしょうか。

将来立派な大輪の『花』を咲かせるには、大いに経験知を高める専門学習や課外活動にチャレンジして『枝』を広げ伸ばすとともに、何のための学びなのか、トレーニングなのかとこうした田的意識をしつかつもつて『根』を深く張れることが重要です。これらが習慣化できればおのずと余白の時間が生まれます。あらたなアイディアでより良いものをカタチにするには、この余白の時間が肝要です。

何事にも主体的に楽しみながら全力で取り組んで」など、人は成長できるのだと信じます。皆さんのが高校生活が充実したものとなるよう、『常にプラス思考で～今までやることを逆算して始めてみよう～』を実践していくください。私も学校も実践する皆さんを最大限サポートします。

あらためまして保護者の皆さん、お子様の「入学、誠におめでとうござい」ます。私共教職員は、教育目標に掲げる「豊かな人間性、確かな技術を身につけ、京都から社会の発展と人類の幸福に貢献できる人材を育成する」の実現に向け、全力を挙げて、教育に取り組んで参ります。

高校生活では、様々な場面においてお子様は悩み、迷い、考え、判断しなければなりません。お子様が、自らの未来を自分で切り拓けるよう、「これからもお子様の成長を支え、見守つていただきますようお願いいたします。」これからのお子様の成長は、学校のみならず、学校、家庭、地域社会が連携して進めていくことが益々重要になつてきます。学校と家庭が円滑な「リユースーション」の中で共通理解のもと、お子様はより豊かな専門教育を享受し、将来に向けてしっかりとした土台を築くことができます。それとの役割を認識し、お子様の成長という同じベクトルで協力し合つて参りたいと考えております。

結びに、新入生の皆さん、健康で実りある高校生活を送り、多くを学び、

多くの友を得て将来の夢に向かつて大きく飛躍することを祈念して此と
いたします。

令和7年4月8日

京都市立京都工学院高等学校 校長 谷口正朋